



# 与論小だより

学校教育目標：校訓「至誠」を胸に、未来に挑む子供の育成



ブログはこちら



## 新年を迎えて

校長 岩元 輝美

新しい一年が始まりました。旧年中は、本校の教育活動に御理解・御協力を賜り、誠にありがとうございました。本年におきましても、引き続き、よろしくお願いいたします。

さて、新年を迎えると共に、学校では3学期が始まりました。元気な子供たちの声が学校に戻ってきてとてもうれしい気持ちになり、「3学期もがんばろう！」という思いが湧いてきました。

御承知の通り、3学期は「まとめ」の学期です。次のステップに進むための、とても大切な学期となります。ただし、3学期は一番短い学期でもあります。次のステップに進むために必要な力を、しっかりと身に付けるため、日々の教育活動を進めています。ぜひ、御家庭でも、3学期の過ごし方を話題としていただき、次のステップに向けて計画を立て、取り組んでいただきますようよろしくお願いいたします。

ところで、「新年」「計画」という2つのキーワードから、「一年の計は元旦にあり」ということわざが浮かんできます。「何かに取り組む時は、最初にしっかりと計画を立ててから臨むことが大切である」という意味で用いられ、この時期によく耳にします。このことわざは、中国の「月令広義」という書物の中に出てくる、「一日（いちじつ）の計は晨（あした）にあり、一年の計は春にあり、一生の計は勤にあり、一家の計は身にあり」という言葉が由来となっているそうです。「一日の計画は朝、一年の計画は正月というように、はじまりの時期に計画を立てることで日々の充実度が決まり、勤勉に働くことで一生が決まり、健康維持によって一家の行く末が決まる」という意味合いです。計画を立てて物事にあたることの重要性が、よく伝わってきます。



また、このことわざと似たものに、「一生の計は少壮の時にあり」ということわざがあります。若くて、元気いっぱいの青年期に、将来のことをよく考えておくべきだという意味合いです。小学生の頃に抱いた夢に向かい、努力を重ね、世界で活躍するような人になった、というようなサクセスストーリーを聞くことがありますが、このことわざの良い例かもしれません。

このような、世界で活躍するという例は少ないかもしれませんが、実際には、身近に似たような例はたくさんあると思います。一生懸命勉強したり、練習したりして、テストで自分なりに納得できる点を取る、スポーツチームでレギュラーになる、希望した学校に進学する、希望した職業に就く、子供の時に描いた将来の夢を叶える、というようなことです。

将来の夢を描くことと身近な目標を設定することは、ゴール地点を見据えるという点で共通しています。自分で決めたゴール地点だからこそ、そこに向かってがんばろうというエネルギーも湧いてきます。途中で変更、修正して構いません。子供たちには、自分で決めたゴールに向かい、自ら考え、行動できる人になってほしいと思います。御家庭でも話題にしていただき、まずは目標設定から始めてみてください。

改めて、与論のことわざ「<sup>△</sup>思<sup>△</sup>イドウ <sup>ヌサリ</sup>運命 <sup>フイ</sup>請<sup>△</sup>ドウ <sup>ウブン</sup>幸運」(思い願うことがその人の運命となり、請い願うことがその人の幸運につながる)を胸に刻んだ3学期のスタートでした。